

平成19年度 「基礎・基本」 定着状況調査結果の分析（英語）

全体的にどの領域から見ても、低い通過率である。広島市の平均通過率と比較しても、7.8ポイントも下回っている。領域別に見ると、「聞くこと」「話すこと」は広島市のものと比べ約4～7ポイント低いのにとどまっているが、「読むこと」「書くこと」については10ポイント以上下回っている。特に緊急な課題として「読むこと」「書くこと」の力を付けることが望まれることが分かる。

英語の基礎、特に「読むこと」「書くこと」の基礎を培う上で、語彙の習得は絶対に抜きにして考えられない大切な事項である。これまで語彙力を培う為に、定期的な小テストの実施、宿題をほぼ毎日課す、など対策を講じてきたものの、十分に定着しているとはいえない状況である。その原因の一つとして、自分で努力をする姿勢の不足があげられる。単語を覚えるという地道な「作業」をし、身に付けられた生徒はある程度の成果を出せることが期待できるが、努力をする姿勢が不足しているために、語彙の習得状況がよくない。結果「読むこと」「書くこと」が極端に通過率が低い状況であると考えられる。生徒に必要な語彙力を付けさせる、またそのための努力をする姿勢を身に付けさせるためにはどのような取り組みを講じていく必要があるのか、検討していかなければならない。その上で、文法や文のしくみに対する理解が進むためのさらなる工夫を講じていきたい。（文法についてもほぼ毎日の宿題を課し、ドリルの時間も十分に課しているつもりであるが、宿題の提出率が大変に悪く、残念な状況が続いている。）

○「聞くこと」に関して

領域全体では市平均よりも7ポイント低い。ただし、基本的な語の知識や序数の知識、進行形の知識を問う問題については市平均を上回っている。しかし、その他の項目については下回っており、英語を「話し」「聞く」機会をさらに増やしていくことが必要であるかも知れない。

○「読むこと」に関して

領域全体でも市平均より約10ポイント低くなっているが、特に「アルファベットについての知識」を問う問題で市平均よりも約12ポイント下回っていることは、大変深刻な状況であると言わざるを得ない。まず文字の形、配列、発音などを確実に覚えるための活動を確保することからもう一度取り組む必要がある。「会話の流れを理解すること」も十分にできておらず、「書き手の意向を正しく理解すること」も十分ではない。しかし、それ以前のところでかなりの生徒がつまづいていると考えられる。

○「書くこと」に関して

領域全体で市平均よりも約13ポイント下回っている。1年生で学んだ事項を問う問題も通過率が著しく低い状況であり、この値からは、1年で学んだ事項が十分に定着していないと言わざるを得ない。もう一度1学年からの丹念な復習をする必要がある。さらには英文を書く問題についても、市平均より約16ポイント下回っている。

○「話すこと」に関して

領域全体では市平均より約4ポイント下回っている。しかし多くの項目で市平均より上回っている状況があり、他の領域と比べ定着度が高いと言える。「時間を問う問題」で **thirty** と **thirteen** の区別を上手く言えなかった生徒が多かったようだ。発音の区別などをさらに丹念に指導する必要があるが、発音練習については特に取り組む姿勢が今ひとつであるので、積極的に取り組むためにどのような工夫をすればよいのか、検討したいと思う。